

近代

第11章 近世から近代へ 2. 幕府の滅亡と新政府の発足 (1) 戊辰戦争と新政府の発足

ぼしん
因州藩と戊辰戦争

昨十五日薩藩ニ引続、湯嶋天神前迄進軍分隊致シ候節、弊藩茂同様分隊天神社内江相向候処、賊兵無之二付、薩藩上野江進撃、続テ弊藩池之端迄進軍仕候処、攻口之模様難定、中町迄押寄広小路より及激戦居、薩藩ニ応援之心得を以横矢を入、暫時発砲仕候得共、間遠ニ而はかばか敷無御座候間、其場を引揚ケ下谷御徒町ヲ廻リ候処、折能賊兵彰義隊ニ出会直ニ進撃致シ候処、旧砲一門捨置逃去申候、其後賊兵三方ヨリ少々宛出沒狙撃致シ候間、我兵同断是ニ応シ小組致シ、夫ヨリ下谷江向ひ進撃、暫く大手之様子窺合居罷在、遂ニ薩藩申合、機ニ乗シ弊藩ハ横合ヨリ黒門右脇罌上ヲ押登リ暫時砲戦致シ、薩藩ト大手より進撃、一時ニ黒門ヲ攻破リ山内江打入申候、同日討死・手負及捕別紙ニ相認御届申上候、以上

五月十六日 河田佐久馬

「因州藩上野戦争届」(『復古記』[東京大学史料編纂所蔵](#))

【意訳】
昨十五日、薩摩軍に続き湯嶋天神まで分隊・進軍し、さらに池之端まで進み上野広小路で激戦になった薩摩軍を援護したが、戦果がはかばかしくなく、下谷御徒町まで引き揚げたところで彰義隊に出会い、彼らは旧砲門をすてて小部隊に分かれて攻撃してきたので、我々もこれに応じて小部隊で応戦した。下谷へ向かって進撃し、暫く大手の様子をうかがったが、薩摩藩と談合して、我が藩は黒門脇の土塁より砲撃することし、薩摩藩と協力してついに黒門を打ち破った。この日の死者・負傷者・捕縛人を別紙のとおり報告する。

解説

1868(明治元)年の江戸城の無血開城ののち、不満をもつ旧幕臣約1,000人が、徳川慶喜を援護しようと彰義隊に結集し、上野寛永寺に拠って東征軍に抵抗した。この戦いは上野戦争と呼ばれた。

因州藩からこの戦いに参加したのは、「分地相模守(池田徳定)の石川豊太郎・久山省二小隊、山国隊*・佐分利鉄次郎隊」「河田佐久馬*・足立無事介・秋田嘉兵衛・永見和十郎・筑波小次郎」等であった。

因州藩の各部隊は、薩摩藩と協力して黒門攻略に尽力したといわれている。特に黒門突破に苦戦していた薩摩藩を周辺から射撃で援護したり、山王台への突破を敢行して中堂・法華常行に火をかけたとされる。

この史料からは、河田が薩摩を全面的にサポートし、彰義隊攻略に成果をあげた様子が見える。

*山国隊…丹波国桑田郡山国郷(現京都市右京区)で結成された志願農兵隊。鳥取藩部隊に加わり、河田佐久馬に率いられて、官軍として戊辰戦争を戦った。

*河田佐久馬…本名河田景与(1828～1897年)。鳥取藩士の長男として生まれる。鳥取藩の尊皇攘夷派の中心となり、1863年「八月十八日の政変」前夜に京都の本圀寺で幕府方の藩の重臣を襲撃する(本圀寺事件、因幡二十士事件)。その後、坂本龍馬たちと蝦夷地の開拓を構想、戊辰戦争では官軍の東山道総督府参謀として、山国隊等を率いて、東日本の各地を転戦した。1871年の廃藩置県を受けて、初代鳥取県権令(現在の県知事に相当)となる。その後、元老院議員、貴族院議員を歴任した。

(担当：前田孝行)



千住円通寺に移築されたかつての上野黒門



激しい戦争の様子を物語る弾痕

参考資料

- 鳥取県立博物館『贈従二位池田慶徳公御伝記』(1987年)
- 鳥取県『新鳥取県史資料編 近代6 軍事・兵事編』(2017年)